

Ga-P005

会場：IM2

時間：6月25日 17:30-19:00

日高変成帯の下部地殻岩石におけるグラニュライト相斑れい岩マイロナイトとデコルマン

Granulite-grade gabbroic mylonites and crustal-scale decollement in a deep crust exposed in the Hidaka metamorphic belt, Japan

豊島 剛志[1], 小松 正幸[2]

Tsuyoshi Toyoshima[1], Masayuki Komatsu[2]

[1] 新潟大学・大学院自然科学, [2] 愛媛大・理・生物地球圏科学

[1] Grad. Sch. Sci. & Tech., Niigata Univ., [2] Dept. Earth Sci., Fac. Sci., Ehime Univ.

日高変成帯北部では、下部地殻条件（グラニュライト相）で形成された斑れい岩マイロナイト帯が、デコルマ面とそこから派生するランプに沿った形で分布する。マイロナイト化の程度はデコルマ面に（西方に）向かって強くなり、斑れい岩は細粒化する。マイロナイト化が進むに従い、岩石構造・組織、ファブリック、鉱物の化学組成もまた変化する。最も変形したマイロナイトでは、斜方輝石ポーフィロクラストの縦横比が1：40にまで及ぶ。マイロナイトの原岩は主として輝石斑れい岩であるが、帯の東側はカンラン石斑れい岩起源マイロナイトよりなる。これらはいずれも日高変成帯の prograde 変成作用ピーク期に貫入した斑れい岩である。